

---

# 昭和橋

美富院

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

昭和橋

### 【コード】

N1908J

### 【作者名】

美富院

### 【あらすじ】

幼いころの小学校の一日です。

橋の上から石を投げると、川の底から綺麗な絵具の緑色が湧いてくる、と同時に阿波がプクプク当時の僕は不思議とも思わなかった。はしを渡ると、あと少しで小学校のコンクリートの柱と木で出来た校門、

校門を入るとグループ登校の友達バラバラに木造の校舎に散って行く、校庭では先に来ていた子が遊んでいる。

僕も、いそいでランドセルを置きに教室に走り校庭に戻り友達とあそび始めた。

朝母親に起こされる時は、毎日学校に行きたくないと思うが、校門を入ると早く遊びたく、わくわくする。

毎回朝遊べる訳では無い当番という面倒な事をしないといけない日がある。当番の日は校門を入ると足が重たくなる、だらだらと教室に入り当番をする。

朝礼のチャイムが学校中に響きクラスごとに整列ラジオ体操・校長の話聞く。先ほどまで元気に遊んでいたのに、まぶたが重くなる。横の席は加代ちゃん、担任の先生は小太りで黒いメガネにシヨートカットとても優しく授業は楽しい。このころの幼い僕は女を意識することは無かった、男女関係無く楽しくクラス中仲良く遊んだ。

給食の時間だ当番がアルミの容器に脱脂粉乳・コッペパン・野菜・クリームシチューみたいなの？、

配膳された給食は苦手でも全部食べないと昼休みまで、食べるまで残されてしまう。昼休み時間は長いので特に遊びは楽しい。

今日は加代ちゃんに家で遊ぼうとに誘われた。女友達の家に行くのは初めてだが、遊ぶが楽しみだ。

五時間めの授業が終わり下校だ。下校はいつも好きな友達と校庭で遊び帰るが、今日は遊ばず加代ちゃんと二人で下校だ。いつもは曲

がらない橋の手前を右に行く20分位で加代ちゃんに家についた。工場の中入る、大きな鉄骨が置いてある誰も居ない工場の中を進む、壁に有るドアを開け加代ちゃんが、こっちだよと案内してくれた。ドアの外には小さい平屋の家が有った。裏口の様で縁側のスリガラス格子の引き戸を加代ちゃんに開けた。部屋の中を見ると隅に有る布団におばあさんが寝ていた。

おばあさんは僕の顔見て優しい顔で会釈してくれた。おばあちゃんの寝ている部屋で少し遊んで帰った。

何をして遊んだかは全然覚えていない、加代ちゃんの家に行ったのは一度だけだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1908j/>

---

昭和橋

2010年10月9日19時35分発行